

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	基山町立基山小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育について、職員全員で研鑽を積み、個に応じた支援の在り方について意識を高めることができた。今後も、高い専門性をもって指導・支援にあたることができるように研修の機会を作り、研鑽を積んでいきたい。 ・小中一貫教育の充実を図るため、「すみそあじ」を月目標に取り入れ、年間取り組んできた。児童の意識づけはできているが、家庭にも協力をお願いするなど、地域・家庭・学校が連携し、より一層定着を図りたい。 ・一人一台端末の効果的な活用と職員のスキルアップを図ることができた。今後は、個に応じた学びにおける活用についても取り組んでいきたい。
2 学校教育目標	きたえ やりぬき まなびあう 【 夢いっぱい基山っ子！ 笑顔であいさつ・笑顔でありがとう 】
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基山中校区の小中一貫教育では、引き続き9つの専門部を校内組織と更に関連付ける。これにより、これまでの取組の精査を図るとともに、各専門部の機能強化と専門性をさらに高めていく。 ・特別支援教育において、個に応じた指導や支援ができるよう、全職員が児童理解に努めたり研修等積極的に参加したりすることで、スキルアップをしていく。 ・一人一台端末の効果的な活用では、毎日の持ち帰りや個に応じた学びにおける活用について取り組むことで、児童の主体的な学びの醸成と基礎学力の定着を図る。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・児童が主体的に学ぶ授業の実践	○「友達との対話などを通して、学習への意欲が高まった」と回答した児童80%以上	・校内研究を柱とし、主体的に対話的な学習に取り組むことで、児童の主体的な学びを育成する。	A	・第1回児童アンケートでは、90%を超える児童が学習への意欲が高まったと回答している。研究を柱とした授業実践の結果だと言える。今後も継続して、対話を重視した授業づくりに取り組んでいく。	A	・保護者アンケートでは、学力向上への取組について90%以上の理解を得た。対話を通して自らの学びをよくなしていると89%の児童が回答した。研究を柱とした授業改善が、他教科へも広がった成果でもある。	A	・対話活動を重視した授業改善への取組が成果を上げているので、次年度も継続して取り組んでほしい。	・学力向上コーディネーター ・研究主任 ・小中一貫教育担当	
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童85%以上	・人権集会や授業参観での道徳等の授業公開などを通して、児童の人権意識向上を目指す。	A	・道徳に関するアンケートでは、90%を超える児童が、学んだことを生活に生かそうとしていると肯定的な回答をしている。今後は、集会活動などを通して啓発を図っていく。	A	・人権集会や道徳の授業、日々の教育活動における人権意識向上につながる指導などによって啓発を図ることができた。保護者アンケートからも90%を超える肯定的な評価であった。	A	・人権教育の視点として、SNSでのトラブル等も多くあるのでネットリテラシーについても重点をおいて取り組む必要がある。	・道徳科担当 ・人権・同和教育担当者	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの未然防止、相談活動の充実等組織で対応ができていると回答した教員85%以上	・月ごとのいじめアンケートを通して、いじめの発見に努める。 ・職員研修会を実施し、いじめへの理解、その対応について見識を高める。 ・管理職、教育相談、SC、担任との相談体制を構築し、連携を図る。	A	・職員アンケートより90%以上がいじめの未然防止や早期発見に取り組んでいると回答している。今後は、組織としての対応、早期解決を目指し取り組んでいく。 ・相談体制の構築と連携を継続して取り組んでいく。	A	・いじめ事案の対応については、管理職、学年、担任、SO等と連携を密にしながら対応をすることができた。 ・学校のいじめへの対応についての保護者アンケートでは、90%を超える肯定的な回答があり、今後も組織的に継続して対応する。	A	・いじめについては、組織で継続して取り組み、常にアンテナを高めて予防と早期発見に努めてほしい。	・教頭、主幹教諭 ・生徒指導担当	
	●児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・学級づくりや児童対応等について職員の共通理解を図り、児童の自尊感情を育成する。 ・学校行事等やキャリアパスポートなどを活用し、児童の夢や希望を育む。	A	・児童アンケートでは、80%以上が肯定的な回答である。教師も高い意識をもって取り組むことができている。 ・将来の夢や目標について、80%以上が肯定的な回答である。児童の心を育む学校行事や、キャリアパスポートを活用することで、自己肯定感が高まるように取り組んでいく。	A	・児童アンケートでは、90%以上の肯定的な結果であり、教師の指導が児童へ浸透していることが分かる。 ・学校行事や体験活動、キャリアパスポートでの学びの振り返りを通して、自己肯定感を高め夢や希望が持てるようになった。	A	・児童の自尊感情を大切にされた指導方針が職員にも十分に浸透していることがアンケート結果から伺えられる。夢や目標を持った児童の育成に努めてほしい。	・学校行事担当(教頭、主幹、教務、各学年) ・「きやま学」担当	
	○(学校独自重点取組・任意)										
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	●「安全に気をつけて生活をしている」回答した児童80%以上 ●「災害などが起きたときに、命を守る行動をとることができる」と回答した児童70%以上	・交通安全教室や避難訓練などを実施し、児童への安全意識への向上を図る。 ・HPや学年通信、学級通信等で家庭への啓発を図り、学校全体で安全に対して取り組む。	A	・80%以上の児童が安全を意識して生活していると回答している。今後は訓練等を通して啓発を図ってほしい。 ・命を守る行動を知っている児童が80%であった。しかし、災害とは、いろいろな事態が考えられるので工夫を図っていく。	A	・保護者及び児童のアンケート結果では、90%以上ができていないと回答している。また、災害時の行動についても90%以上の児童ができて回答している。今後は、避難等の訓練だけでなく啓発を図っていく。	A	・学校として安全教育への取組についての成果が出ていることが分かる。今後は継続的に安全教育について取り組んでほしい。	・安全指導担当	
	○食育教育の充実	○給食に関するアンケートで、給食が楽しいと回答した児童90%以上 ○「朝食を食べさせている」と回答した児童80%以上	・給食だよりや教科教育を通して、児童の食への意識の向上を図る。 ・「食」への大切さを家庭へも情報発信し、食や朝食への意識を高める。	B	・給食が楽しいと回答した児童が80%を超えていた。今後は継続できるよう改善を図っていく。 ・保護者、児童のアンケートで80%を超えていた。朝食については、今後も継続して啓発に取り組んでいく。	A	・給食が楽しいと回答した児童が90%を超えていた。給食委員会による給食週間や地域食材の紹介、5年生の米作り体験の発表など、食育教育への取組の成果だと考える。 ・朝食の摂食では、保護者、児童アンケートともに80%を超える結果となり、今後は啓発をしていく。	A	・食育のために、委員会活動や食材の紹介、5年生の米作りの発表など様々な形で取組が実を結んでいる。今後も継続した取組を期待している。	・栄養教諭 ・食育指導担当	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限の遵守 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・職員へのタスクマネジメントを意識した業務改善への啓発と退勤時間の徹底。 ・長期休業中の研修等を計画的に実施し、休暇取得をとりやすくする。	B	・月平均で約10%の職員が超過勤務が45時間を超えていた。今後は業務改善への啓発と、金曜日の定時退勤を目指して取り組んでいく。 ・長期休業中や時程の変更等を行い、年次休暇の取得がしやすいよう継続して取り組んでいく。	B	・職員が見通しを持って業務に取り組めるように、計画表を提示するなどの工夫で超過勤務の軽減を図ることができた。 ・年間の平均年休取得の日数が13日であった。昨年から校時表の変更や休業中の研修日程を調整するなどの工夫を実施した。	B	・職員の超過勤務時間の縮減や平均年休取得の日数について、一定の成果をあげているが更なる改善に期待している。	・教頭、主幹教諭、教務	
	○職員が働きやすい職場環境の整備	○「職員が働きやすい職場環境となるよう取り組んだ」と回答した職員80%以上 ○「職員が働きやすい職場環境である」と回答した職員80%以上	・学期ごとに教育計画や職場環境等のアンケートの実施。 ・職員の見解を参考としながら教育計画や学校行事等の改善。	A	・業務に計画的に取り組んだ職員が80%を超えていた。今後はこの雰囲気が続くよう職員の意識を高めていく。 ・80%以上の職員が働きやすい職場環境と回答している。職員の声を大切にしながら環境づくりに努めていく。	A	・働きやすい環境であると回答した職員が、第1回のアンケートよりも増え90%を超える結果であった。組織として縦と横の関係が良好であり、風通しのよい職場環境が醸成できたと考える。	A	・職員アンケートから働きやすい職場の醸成に、管理職、職員が一緒になって取り組んだ成果だと考える。	・教頭、主幹教諭、教務	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	・職員研修等を通して、職員への専門性の向上を図る。 ・支援学級職員の専門性の向上を図るため、連絡会や講師を招聘しての学習会を実施する。	A	・アンケートから80%以上の職員が専門性が高まったと回答している。夏季の研修等の成果であり、今後も継続した取組を実施していく。	A	・SCを活用した研修会では、いろいろな特性を持った児童対応についても学ぶことができた。また、月1回特別支援Coによる特別支援職員間での研修会など日々の積み重ねが成果につながった。	A	・特別支援教育に対する専門性を高めることは重要であり、そのための講師による研修会、SCの活用、特別支援Coによる研修会など多くの学びの場を継続して取り組んでほしい。	・特別支援コーディネーター	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○基本的な生活習慣の定着	○あいさつ、返事、廊下歩行、はきもの揃えの定着 ○「早寝・早起き」の徹底	○基山小中一貫の取組「すみそあじ」を達成できたと回答した児童80%以上 ○十分な睡眠が取れていると回答した児童80%以上	・生徒指導連絡会などを通して、職員の共通理解を図りながら、共通実践に取り組む。 ・保健だよりや集会活動などから、規則正しい生活習慣と睡眠の大切について児童の理解を図り、生活の改善に取り組ませる。	B	・基山中校区小中一貫教育の取組では、児童アンケート80%以上が達成できたと回答している。しかし、あいさつやスリッパに課題が見られ、改善へ向けて取り組んでいく。 ・睡眠が取れている回答した児童が70%を超えていた。睡眠については、今後は啓発に取り組んでいく。	B	・基山小中一貫教育の取組「すみそあじ」については、生徒指導の視点で達成できたとはいえない状況である。 ・睡眠時間については、第1回と変わらない数値であり、児童を取り巻く生活環境も要因であり、次年度へ向け対策を考える。	B	・「すみそあじ」が児童に浸透するよう、どのような取組をするのが重要である。次年度での新たな取組に期待している。	・生徒指導担当 ・養護教諭	
○GIGAスクール構想におけるICT利活用	○一人一台端末の有効活用	○一人一台端末の活用が十分にできたと回答した教員80%以上 ○「端末を用いた学習は、学習に役立つ」と回答した児童80%以上	・職員研修等を通して、学習指導での端末の活用への実践力の向上を図る。 ・端末の特性を生かした活用をすることで、児童の有用感を育む。	A	・学習用端末の活用については、80%の職員が積極的に授業に活用できたと回答している。今後は家庭学習への活用へも取り組んでいく。 ・調べ学習等での学習用端末の活用により児童の80%が肯定的な回答をしている。今後は継続的に活用していく。	A	・学習用端末の活用は、授業においては100%であり、家庭学習においても100%に近い。積極的な活用ができていると考える。今後は、更なる利活用を高める使い方について考えていきたい。	A	・授業や家庭学習でタブレットが有効に活用されていることは理解できる。ただ、家庭では動画配信を見るなどの本来の目的と異なる使用をしている面もある。	・情報教育担当	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を柱とした授業改善については、次年度も継続して取り組む。対話を位置づけた授業づくりは、児童の主体的な学びにもつながり学習効果が期待できると考える。 ・心の教育の柱である人権・同和教育と道徳教育、特別活動などを通して、児童の人権への意識を高め、「ほめる」ことを大切にした指導に継続して取り組む。 ・小中一貫教育として中学校との連結を意識した、学習指導、生徒指導、特別支援教育等に今後も継続して取り組む。
----------------	---